

事務事業名	7025 農政対策事業														
担当組織	環境経済部 経済戦略室										担当		労働農政担当		
組織コード	R6	15	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R6	01	06	01	01	01	01	記入日	令和 6年 6月12日	
	R5	15	01	00		R5	01	06	01	01	01	01			

1. 事務事業の概要

<PLAN>

総合振興計画上の位置づけ										実施計画候補	
基本目標・考え方	06	都市環境と自然環境が調和したまち					再掲施策	09	31	32	● 対象
施策	25	自然に親しむ空間の整備・推進									○ 対象外
事業期間	昭和５０年度～令和１２年度										
根拠法令 通 達 等	戸田市農業研究会補助金交付要綱 土に親しむ広場の設置に関する要綱					関連計画 施政方針	戸田市経済戦略プラン				
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの										
強靱化計画	□ リスクシナリオ番号：										
総合戦略	□ 施 策 番 号：										
対象	市民、農業者、市内在住広場利用者、農地所有者										
事業目的	・ 農地法に係る農地転用・権利取得による届出や調査等を行い、農地の適切な利用を進める。 ・ 姉妹都市での収穫体験等を通じて、市民の都市型農業に対する理解を深める。 ・ 農産物の栽培から収穫まで体験することを通じて、市民の農業への理解を醸成する。										
事業内容	・ 農地転用の届出や受理済証明書の発行、農地利用状況調査等を実施する。 ・ コンパル祭等にて市内農家が生産した農産物の直売を実施する。 ・ 姉妹都市交流事業として、市民を対象に美里町での収穫体験を実施する。 ・ 食育の一環として、学校教育や保育園活動において、農業体験や地元産の野菜等に触れる機会を提供する。 ・ 農地所有者から申出のあった農地を市が借り受けて、農園として整備し、利用希望者へ区画を貸し出す。										
実施主体	■ 市による単独直営 □ 委託 （ □ 3セク・財団 □ 企業 □ 市民・NPO） ■ 協働・協力（ 農業研究会 ）										
行財政改革 の取り組み											

2. 事業費

<DO>

事業の 予算・実績			令和5年度 執行額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	令和7年度 計画額（千円）	令和8年度 計画額（千円）	令和9年度 計画額（千円）
	主な事業内容		土に親しむ広場の管理・運営、コンパル祭での農産物	土に親しむ広場の管理・運営、コンパル祭での農産物	土に親しむ広場の管理・運営、コンパル祭等での農産	土に親しむ広場の管理・運営、コンパル祭等での農産	土に親しむ広場の管理・運営、コンパル祭等での農産
	事業費		8,483	10,374	9,395	9,395	9,395
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	2,442	3,420	3,420	3,420
		一般財源	8,483	7,932	5,975	5,975	5,975
	人件費		6,631.02	10,401.6	10,401.6	10,401.6	10,401.6
	投入 人員	常勤職員	1.02人	1.6人	1.6人	1.6人	1.6人
		非常勤職員	0.51人	0.32人	0.32人	0.32人	0.32人
事業費＋人件費		15,114	20,776	19,797	19,797	19,797	

3. 目標達成状況 <CHECK>

指標名			説明・算定式	単位	R3目標 R3実績	R4目標 R4実績	R5目標 R5実績	R6目標 R6実績	R7目標 R7実績
目標達成状況	事務事業活動①	「土に親しむ広場」の快適な利用を目的とした除草等整備の実施	共有部の除草等整備の実施回数	回	12	12	12	12	12
	事務事業活動②	収穫祭の協力団体数	収穫祭への出店等に係る協力団体数	者	8	8	8	8	8
	事務事業活動③	姉妹都市交流事業美里町収穫体験の参加促進	姉妹都市交流事業美里町収穫体験の広報回数	回	2	2	2	2	2
	事務事業成果①	市民農園「土に親しむ広場」区画利用割合	年度末の段階で利用されている区画の割合	%	98	98	98	98	98
	事務事業成果②	収穫祭の参加者数	来場者延べ人数	人	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500
	事務事業成果③	姉妹都市交流事業美里町収穫体験参加者数	姉妹都市交流事業美里町収穫体験への参加者数	人	65	65	65	65	65
	B: いずれかの目標を達成した。				0	1,026	0	—	—
	<判断理由> 美里町での収穫体験は、目標どおり2回実施し、参加者数も目標値を上回った。				97	95	98	—	—
	土に親しむ広場は、応募倍率は4.57倍でキャンセル待ちが発生している。順次キャンセル待ちの方に声を掛けて、区画の利用を促しているため、目標は達成している。				0	38	74	—	—
目標達成状況の分析									

4. 評価結果 <CHECK>

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	3年度	4年度	5年度	B: 施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 美里町収穫体験は、コロナが明け従来どおり年2回実施し、土に親しむ広場は定員以上の新規応募があり、市民の農業に対する機会の提供には寄与できている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	3年度	4年度	5年度	A: 経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 農業研究会への補助内容の精査や、土に親しむ広場に係る業者選定など、経費の精査に努めており、適切な範囲といえる。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	3年度	4年度	5年度	B: 事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 土に親しむ広場に寄せられる意見、トラブルに対応するため、職員が定期的に広場を回している。美里町収穫体験は、定員以上の応募があるが公正に抽選を行っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	3年度	4年度	5年度	B: 受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 土に親しむ広場は、利用者から維持管理料を徴収し、姉妹都市での収穫体験では実施の際は参加者から参加料を徴収するなど、受益・負担は適正であるといえる。

5. 事業の見直し・行財政改革の取組内容 <ACTION>

令和5年度に実施した取組内容・効果	戸田収穫祭の廃止、夏野菜初心者セミナー及び秋冬野菜初心者セミナーの実施
令和6年度に実施する取組内容	農地台帳を紙ベースでの管理から電子化へと切り替え

6. 令和7年度の方向性・取組方針 <ACTION>

事業の方向性・取組方針	☒ 1現状で継続 ☐ 2拡大して継続 ☐ 3縮小して継続 ☐ 4他事業と統合 ☐ 5休止 ☐ 6その他見直し ☐ 令和7年度で終了 ☐ 令和6年度で終了 ☐ 令和5年度で終了
	<方向性の判断理由・取組方針>
	姉妹都市での収穫体験や土に親しむ広場など、市民が農業へ触れる機会を創出し、都市型農業への関心を高めることができるよう事業に取組む。令和7年度以降も継続していく。

事務事業名	40486 緑化事務費														
担当組織	環境経済部 みどり公園課										担当		緑化推進担当		
組織コード	R6	15	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R6	01	08	04	07	01	01	記入日	令和 6年 6月16日	
	R5	15	06	00		R5	01	08	04	07	01	01			

1. 事務事業の概要 <PLAN>

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補		
基本目標・考え方	06	都市環境と自然環境が調和したまち								再掲施策				● 対象	
施策	25	自然に親しむ空間の整備・推進												○ 対象外	
事業期間															
根拠法令 通 達 等									関連計画 施政方針						
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの														
強靱化計画	☐ リスクシナリオ番号：														
総合戦略	☐ 施 策 番 号：														
対象															
事業目的	予算管理シート														
事業内容	予算管理シート														
実施主体	☒ 市による単独直営 ☐ 委託 (☐ 3セク・財団 ☐ 企業 ☐ 市民・NPO) ☐ 協働・協力 ()														
行財政改革 の取り組み															

2. 事業費 <DO>

		令和5年度 執行額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	令和7年度 計画額（千円）	令和8年度 計画額（千円）	令和9年度 計画額（千円）	
事業の 予算・実績	主な事業内容						
	事業費		10,100	10,975	10,975	10,975	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	10,100	10,975	10,975	10,975	10,975
	人件費		4,550.7	3,835.59	3,835.59	3,835.59	
	投入 人員	常勤職員	0.7人	0.59人	0.59人	0.59人	0.59人
		非常勤職員	0.07人	0.07人	0.07人	0.07人	0.07人
事業費＋人件費		14,651	14,811	14,811	14,811	14,811	

3. 目標達成状況 **<CHECK>**

指標名			説明・算定式	単位	R 3 目標 R 3 実績	R 4 目標 R 4 実績	R 5 目標 R 5 実績	R 6 目標 R 6 実績	R 7 目標 R 7 実績
目標達成状況									
目標達成状況の分析			—：未設定 <判断理由>						

4. 評価結果 **<CHECK>**

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	3 年度	4 年度	5 年度	—：未設定
	—	—	—	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	3 年度	4 年度	5 年度	—：未設定
	—	—	—	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	3 年度	4 年度	5 年度	—：未設定
	—	—	—	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	3 年度	4 年度	5 年度	—：未設定
	—	—	—	<判断理由>

5. 事業の見直し・行財政改革の取組内容 **<ACTION>**

令和 5 年度に実施した取組内容・効果	
令和 6 年度に実施する取組内容	

6. 令和 7 年度の方針・取組方針 **<ACTION>**

事業の方向性・取組方針	☒ 1 現状で継続 ☐ 2 拡大して継続 ☐ 3 縮小して継続 ☐ 4 他事業と統合 ☐ 5 休止 ☐ 6 その他見直し ☐ 令和 7 年度で終了 ☐ 令和 6 年度で終了 ☐ 令和 5 年度で終了
	<方向性の判断理由・取組方針>
	事務に必要な事業であるため、現状で継続していく。

事務事業名	7585 緑化推進事業													
担当組織	環境経済部 みどり公園課										担当		緑化推進担当	
組織コード	R6	15	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R6	01	08	04	07	01	02	記入日	令和 6年 6月16日
	R5	15	06	00		R5	01	08	04	07	01	02		

1. 事務事業の概要 <PLAN>

総合振興計画上の位置づけ							実施計画候補		
基本目標・考え方	06	都市環境と自然環境が調和したまち			再掲施策				● 対象
施策	25	自然に親しむ空間の整備・推進							○ 対象外
事業期間	昭和５４年度 ～ 令和１２年度								
根拠法令 通 達 等	戸田市緑化推進条例、緑化推進に関する規則 戸田市緑化推進補助金交付規程 戸田市建築物屋上等緑化奨励補助金交付要綱 戸田市生け垣等設置奨励補助金交付要綱			関連計画 施政方針	戸田市緑の基本計画 市長公約62「市の鳥」制定や新たな里地保全の推進 による生物多様性確保の推進				
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの								
強靱化計画	□ リスクシナリオ番号：								
総合戦略	□ 施 策 番 号：								
対象	戸田市で保存樹木を所有している者、生け垣・屋上緑化等を設置する者。								
事業目的	良好な自然と生活環境を確保するため、樹木の保全とあわせて緑化を推進し、緑あふれる住み良いまちづくりを図る。								
事業内容	苗木の配布や緑化に関する補助金の交付を実施するほか、緑化を推進する計画の策定や遂行を図る。								
実施主体	■ 市による単独直営 □ 委託 （ □ 3セク・財団 □ 企業 □ 市民・NPO） □ 協働・協力（ ）								
行財政改革 の取り組み									

2. 事業費 <DO>

事業の 予算・実績			令和5年度 執行額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	令和7年度 計画額（千円）	令和8年度 計画額（千円）	令和9年度 計画額（千円）
	主な事業内容		緑化補助金の 交付、苗木の 無料配布	緑化補助金の 交付、苗木の 無料配布	緑化補助金の 交付、苗木の 無料配布、里 地保全推進	緑化補助金の 交付、苗木の 無料配布、里 地保全推進	緑化補助金の 交付、苗木の 無料配布、里 地保全推進
	事業費		4,450	7,373	67,373	27,373	207,373
	財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起 債	0	0	0	0	0
		そ の 他	346	551	551	551	551
		一般財源	4,104	6,822	66,822	26,822	206,822
	人 件 費		5,720.88	7,346.13	7,346.13	7,346.13	7,346.13
	投入 人員	常勤職員	0.88人	1.13人	1.13人	1.13人	1.13人
		非常勤職員	0.19人	0.19人	0.19人	0.19人	0.19人
	事業費＋人件費		10,171	14,719	74,719	34,719	214,719

3. 目標達成状況 **<CHECK>**

指標名		説明・算定式	単位	R3目標 R3実績	R4目標 R4実績	R5目標 R5実績	R6目標 R6実績	R7目標 R7実績
目標達成状況	事務事業活動①	緑化推進のための補助金制度の広報回数	回	3	3	3	3	3
	事務事業活動②	緑化事業「とだグリーンウェイブ」の広報回数	回	3	3	3	3	3
	事務事業成果①	緑化推進のための補助金申請件数(生け垣、屋上緑化、駐車場緑化)	件	4	4	4	4	4
	事務事業成果②	「とだグリーンウェイブ」の植樹本数	本	91	91	91	91	91
				6	6	6	—	—
				1	0	1	—	—
				44	42	44	—	—
目標達成状況の分析		B：いずれかの目標を達成した。 <判断理由> 補助金制度を「広報とだ」、「ホームページ」へ掲載すると共に、「チラシ」を窓口に常備することにより周知啓発を行ったが、目標には至らなかった。また、「とだグリーンウェイブ」の広報活動については目標を達成したが、その成果としての植樹本数については、目標の半数程度となった。宅地開発が進む中、生け垣や植樹等、新たに設置できる環境が減少しているが、緑化の意義等を引き続き周知し、緑化意識の向上と共に、制度の活用に繋げていく。						

4. 評価結果 **<CHECK>**

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	3年度	4年度	5年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 市街化が進み新たな緑地を確保しにくい状況下においては、生け垣や樹林等を保存し緑の減少を防ぐことや、緑化の普及啓発を図る取り組みは都市部での緑化に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	3年度	4年度	5年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 生け垣や屋上緑化には多額の費用がかかるため、経費は適正な範囲である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	3年度	4年度	5年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	C	B	<判断理由> 補助事業は適正であるが、更なる利用促進に向けて、制度の周知方法を工夫する必要がある。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	3年度	4年度	5年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 適正に保全された緑は広く市民に貢献するものであるため適正な範囲である。

5. 事業の見直し・行財政改革の取組内容 **<ACTION>**

令和5年度に実施した取組内容・効果	補助金制度の申請状況等を鑑み事業手法について検討したが、緑化の維持等は一定の費用負担があるため制度は継続することとし、宅地開発の完了検査時など、完成後の緑化維持に繋がるよう周知方法等を工夫していくこととした。
令和6年度に実施する取組内容	補助金制度の利用促進のため周知を継続すると共に、緑の保全意識向上に繋がるよう（仮称）里地公園の運用検討を進めていく。

6. 令和7年度の方向性・取組方針 **<ACTION>**

事業の方向性・取組方針	☐ 1現状で継続 ☒ 2拡大して継続 ☐ 3縮小して継続 ☐ 4他事業と統合 ☐ 5休止 ☐ 6その他見直し ☐ 令和7年度で終了 ☐ 令和6年度で終了 ☐ 令和5年度で終了
	<方向性の判断理由・取組方針> 緑の保全、創出には市民の理解が不可欠であり、補助金制度や「とだグリーンウェイブ」などの緑化事業のほか、生物多様性と緑のもたらす良い効果などをホームページ等で広く市民に周知し、制度の活用や緑化推進機運の醸成を図っていく。 （仮称）里地公園の運用の検討を進め、既存事業の新たな発信拠点にするなど、自然環境に親しむことができる環境づくりを進めていく。また、緑の基本計画の改訂に向けて、基本的な指標となる緑被地調査を進めていく等、事業費を拡大して継続していく。

事務事業名	27263 水と緑のネットワーク推進事業														
担当組織	環境経済部 みどり公園課										担当	緑化推進担当			
組織コード	R6	15	06	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R6	01	08	04	07	01	03	記入日	令和 6年 6月16日	
	R5	15	06	00		R5	01	08	04	07	01	03			

1. 事務事業の概要 <PLAN>

総合振興計画上の位置づけ										実施計画候補	
基本目標・考え方	06	都市環境と自然環境が調和したまち				再掲施策				● 対象	
施策	25	自然に親しむ空間の整備・推進								○ 対象外	
事業期間	平成１９年度 ～ 令和１２年度										
根拠法令 通 達 等	環境共生・創造マスタープラン				関連計画 施政方針	戸田市環境基本計画、戸田市緑の基本計画、水と緑のネットワーク形成プロジェクト(戸田市地区)基本構想、戸田ヶ原自然再生事業全体構想 市長公約63					
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの										
強靱化計画	□ リスクシナリオ番号：										
総合戦略	■ 施 策 番 号 ： 1－2										
対象	市民、事業者										
事業目的	自然と共生するまちづくりを市民など多様な主体とともに推進することを目的とする。										
事業内容	「戸田ヶ原」の自然再生等事業を関係団体等と連携し、水と緑のネットワーク形成プロジェクトの一環として推進する。										
実施主体	■ 市による単独直営 ■ 委託 （ ■ 3セク・財団 ■ 企業 □ 市民・NPO） ■ 協働・協力（ 企業市民NPO ）										
行財政改革 の取り組み											

2. 事業費 <DO>

		令和5年度 執行額（千円）	令和6年度 予算額（千円）	令和7年度 計画額（千円）	令和8年度 計画額（千円）	令和9年度 計画額（千円）
主な事業内容		戸田ヶ原自然 再生、水と緑 のネットワー ク形成	戸田ヶ原自然 再生、水と緑 のネットワー ク形成	戸田ヶ原自然 再生、水と緑 のネットワー ク形成	戸田ヶ原自然 再生、水と緑 のネットワー ク形成	戸田ヶ原自然 再生、水と緑 のネットワー ク形成
事業費		2,443	3,139	3,139	3,139	3,139
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他	0	170	322	322	0
	一般財源	2,443	2,969	2,817	2,817	3,139
人件費		5,265.81	5,070.78	5,070.78	5,070.78	5,070.78
投入 人員	常勤職員	0.81人	0.78人	0.78人	0.78人	0.78人
	非常勤職員	0.16人	0.16人	0.16人	0.16人	0.16人
事業費＋人件費		7,709	8,210	8,210	8,210	8,210

3. 目標達成状況 **<CHECK>**

指標名			説明・算定式	単位	R3目標 R3実績	R4目標 R4実績	R5目標 R5実績	R6目標 R6実績	R7目標 R7実績
目標達成状況	事務事業活動①	戸田ヶ原自然再生地におけるサクラソウ植え付け株数	戸田ヶ原自然再生地に植え付けするサクラソウの株数	株	500	500	500	500	500
	事務事業活動②	戸田ヶ原自然再生事業のイベントの開催件数	さくらそう祭り、植え付けイベント、出張授業等	件	3	3	3	3	3
					6	5	5	—	—
	事務事業成果①	戸田ヶ原自然再生地におけるサクラソウ植え付けの株数	累計	株	9,700	10,200	10,700	11,200	11,700
	事務事業成果②	戸田ヶ原イベント開催参加者人数	さくらそう祭り、植え付けイベント、出張授業等	人	700	700	700	700	700
					559	1,009	585	—	—
	総合戦略KPI①	戸田ヶ原イベント開催参加者人数	さくらそう祭り、植え付けイベント、出張授業等	人	700	700	700	700	700
					559	1,009	585	—	—
目標達成状況の分析					B：いずれかの目標を達成した。 <判断理由> 戸田ヶ原自然再生地における、さくらそう祭り、サクラソウ植え付けなど、イベント開催をともに開催することができたが、イベント参加人数が目標値を下回った。要因は、さくらそう祭りへの参加者が減少したためだが、サクラソウ祭りの開催に対する周知を工夫し、参加者の増加へ繋げていく。				

4. 評価結果 **<CHECK>**

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	3年度	4年度	5年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 水と緑のネットワーク形成プロジェクトの一環として、戸田ヶ原自然再生事業等を市民ボランティア、関連団体と連携・推進することで、自然と共生するまちを実現することから後継んでいる。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	3年度	4年度	5年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 既存事業の活用や市民ボランティア、事業者と協働することにより、限られた予算の範囲内で成果をだしており適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	3年度	4年度	5年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）行動計画や戸田ヶ原自然再生事業実施計画をもとに、市民や事業者と協働しながら進めており、事業手法は効率的、効果的である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	3年度	4年度	5年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	A	B	B	<判断理由> 自然と共生するまちづくりは広く市民の利益に資するものであり、受益・負担は適正な範囲である。

5. 事業の見直し・行財政改革の取組内容 **<ACTION>**

令和5年度に実施した取組内容・効果	市民等がサクラソウに親しむ機会を増やすため、サクラソウ苗の配付対象に保育園を追加した。また、開花時期以外の普及啓発等を行う「サクラソウプロジェクト」を推進していくため、パンフレットを作成し、より興味を持ってもらえるよう情報発信に努めた。 戸田ヶ原自然再生事業については、戸田市商工会報など事業者向けにも企業ボランティア募集の周知を行った。
令和6年度に実施する取組内容	市民等がサクラソウに親しむ機会を増やすため、サクラソウ苗の配付対象箇所を拡大し、より身近に感じることができるよう普及啓発を行う。 戸田ヶ原自然再生事業については、戸田市商工会報など事業者向けにも企業ボランティア募集の周知を行い、引き続き新たな担い手を発掘し体制強化を図っていく。

6. 令和7年度の方向性・取組方針 **<ACTION>**

事業の方向性・取組方針	● 1現状で継続 ○ 2拡大して継続 ○ 3縮小して継続 ○ 4他事業と統合 ○ 5休止 ○ 6その他見直し ○ 令和7年度で終了 ○ 令和6年度で終了 ○ 令和5年度で終了
	<方向性の判断理由・取組方針> 自然に親しみ、花と緑を守り育てる空間の整備・推進のため、自然の働きによるグリーンインフラを効果的に活用できる新たな仕組みづくりや市民がサクラソウに親しむ機会を増やしていく「サクラソウプロジェクト」を推進していく。 また、戸田ヶ原自然再生事業については、市民ボランティアや事業者との協働による取組が着実に進んでいる。さらに新たな担い手の発掘など、取組体制を強化するべく、企業ボランティアの募集にも力を入れ、水と緑のネットワーク形成を推進していくこととし、現状で継続していく。